

唐沢 銀

SUBARU

陸上男子
5000



男子5000m(視覚障害T11) 力走する唐沢剣也(右から2人目) 〓パリ郊外(共同)

2大会連続

パリ・パラリンピック第3日(30日)は、陸上男子5000m(視覚障害T11)決勝で、渋川市(旧小野上村)出身の唐沢剣也(SUBARU)が、14分51秒48で2大会連続の銀メダルを獲得した。今大会日本勢2個目のメダル。ともに出場の和田伸也(長瀬産業)は4位だった。

レース後、唐沢は「残念だったが、自己記録が更新できたので良かった」などと話していた。

唐沢は1994年生まれ。県立盲学校、県社会福祉事業団を経て、2022年にSUBARU入り。21年の東京大会では5000mで銀メダルを獲得、1500mで4位入賞。昨年の世界選手権では、5000mで優勝、1500mで2位に入っていた。

